

帯電防止用ゴムシート

『エレリーク[®]2』取扱説明書

1. 取扱い時の注意事項

-  弊社製品「エレリーク2」を正しく安全にご使用いただくため、ご使用前に本取扱説明書をよくお読みくださいますようお願いいたします。
また、一度お読みいただいた後も、すぐに閲覧できるよう製品の近くに保管いただくようお願い申し上げます。
-  「エレリーク2」は一般工業用途向けに製造されたものであり、医療器具用、食品機器用などといった特殊な用途には適しておりません。
医療や食品衛生、その他安全性の配慮を必要とする用途への使用については、その安全性を弊社では保証いたしかねます。
あらかじめ用途をご確認いただき、本製品に適した用途でご使用いただきますようお願い申し上げます。

1.1 保管について

-  火気は厳禁です。
ストーブなどの熱源の近くや火花の発生する環境では保管しないようにしてください。
-  直射日光や風雨に曝されないよう、屋内に保管してください。
-  折曲げたり、局部的に変形させないでください。
-  地面の上を引きずったり、引っ張ったりしないでください。
-  長期間の保管により、表面にブルーム、ブリードといったゴム製品特有の現象が発生する場合があります。
これらは、ゴムの中に存在する成分が表面に浮き出たものですが、異常現象ではありませんので、布などで拭き取りご使用ください。
-  製品を平らに重ねて保管する場合、お互いの粘着を防止するため、層間にセパレータを介在させてください。

1.2 加工について

-  火気は厳禁です。
ストーブなどの熱源の近くや火花の発生する環境では、研磨、切削などの加工をしないようにしてください。
また、研磨により熱を帯びた研磨粉が堆積すると、発火、延焼する危険性がありますので、周囲に燃えやすいものがないようにしてください。
-  本製品を研磨、切削などの加工をする場合、研磨時の煙、切削時の切粉などにより人体に影響を及ぼす場合があります。
作業環境に適した保護眼鏡やマスクなどを着用して作業ください。

1.3 使用について

-  火気は厳禁です。
ストーブなどの熱源の近くや火花の発生する環境では使用しないようにしてください。
-  医療器具や食品機器用、その他安全性の配慮が必要とされる用途には使用しないでください。
-  長時間直接人体に触れる用途には使用しないでください。
-  外傷を防止するため、ナイフなどの鋭利なものがあたらないようにしてください。
-  表面に油脂分や水滴などが付着すると、滑って転倒することがあります。
また、油脂分や汚れが付着したまま放置すると劣化の原因になります。
速やかに乾いた布などで良く拭きとってください。
-  ご使用環境、製品の劣化などにより、本製品が収縮して目地が開いたり、端部がめくれたりした場合、つまずいて転倒する要因となります。
両面テープや接着加工などにより、床面にしっかりと密着させてご使用ください。
-  帯電防止効果を最大限に発揮させるため、アースは必ずとってください。
-  用途、使用条件、取付方法、環境により、寿命や安全性は大きく影響されます。
実際の使用に際しては、機能、寿命、安全性について事前にご確認の上、適切な敷設ができるようご配慮願います。
-  本製品を相手側に密着使用する場合、内容物の析出や移行により、接触した相手側を変色、変質させる場合があります。
-  長期間の使用により、表面にブルーム、ブリードといったゴム製品特有の現象が発生する場合があります。
これらは、ゴムの中に存在する成分が表面に浮き出たものですが、異常現象ではありませんので、布などで拭き取りご使用ください。
-  屋外や窓辺で長期間放置、使用される用途の場合、オゾンや日光などにより劣化が進行し、表面にクラック(き裂)、剥がれ、変形、退色などが発生することがあります。
発生したき裂が深く、下側の黒いゴム面まで見えてしまう場合や、剥がれ、変形、退色が大きい場合は速やかに新品に交換いただくようお願いします。
-  上履き靴は、帯電防止用靴の着用をお勧めします。

1.4 廃棄について

-  本製品を焼却すると、有害なガスが発生する場合があります。
廃棄する場合は、地方自治体で定められた産業廃棄物処理法を遵守願います。

2. 敷設施工方法の例

弊社が推奨する製品別の敷設施工方法は以下の通りです。
 施工方法、注意事項などの詳細については、3項をご参照ください。

製品名	施工方法
エレリーク [®] 2	3. 1 両面粘着テープ接着工法
エレリーク [®] 2(クロス貼り)	3. 2 接着剤全面接着工法

3. 敷設施工方法

3. 1 両面粘着テープ接着方法

3. 1. 1 概要

感圧型の両面粘着テープでエレリーク2を接着固定する簡易工法で、次のような用途に適します。

- ・ 作業台の静電防止
- ・ 軽荷重製品棚の静電防止
- ・ ライン変更等による貼替えが必要となる軽負荷床面の静電防止

 エレリーク2は、台車を運搬する通路の床面などの耐荷重用途では使用しないでください。

 床面使用において、本工法のケースでは、目地開き、ふくれ、はがれ等が発生する場合があります、状況により貼替え、追加貼りが必要になります。

3. 1. 2 使用材料

表-1をご参照ください。

表-1

材 料 名	仕 様	必要量 ^{※1}
エレリーク [®] 2	—	—
アース板 A	ステンレス板+1.25mm ² IV線	1本/50m ²
両面粘着テープ	0. 15t×40mm×50m/巻	4m/m ²
導電性 粘着テープ ^{※2}	市販品 (例:0.1t×40mm×120mm)	1枚/10m ²

※1：上記の必要量は、敷設面積形態等により若干変動しますので、目安としてください。
 エレリーク2 (標準:10m/巻)に「アース板A」が1セット同梱されていますが、両面粘着テープ、並びに導電性粘着テープは別売りです。
 両面粘着テープは弊社より推奨品を提供(有償)できますが、導電性粘着テープは弊社で取扱いしておりませんので、必要な場合は市販品をご購入いただきますようお願い申し上げます。

※2：エレリーク2を連続して並列に並べて敷設する場合、エレリーク2同士の帯電防止効果を最大限に引き出すため、市販の導電性粘着テープを介在させ、エレリーク2間の導通を確保するようにしてください。

3.1.3 施工概略

図-1をご参照ください。

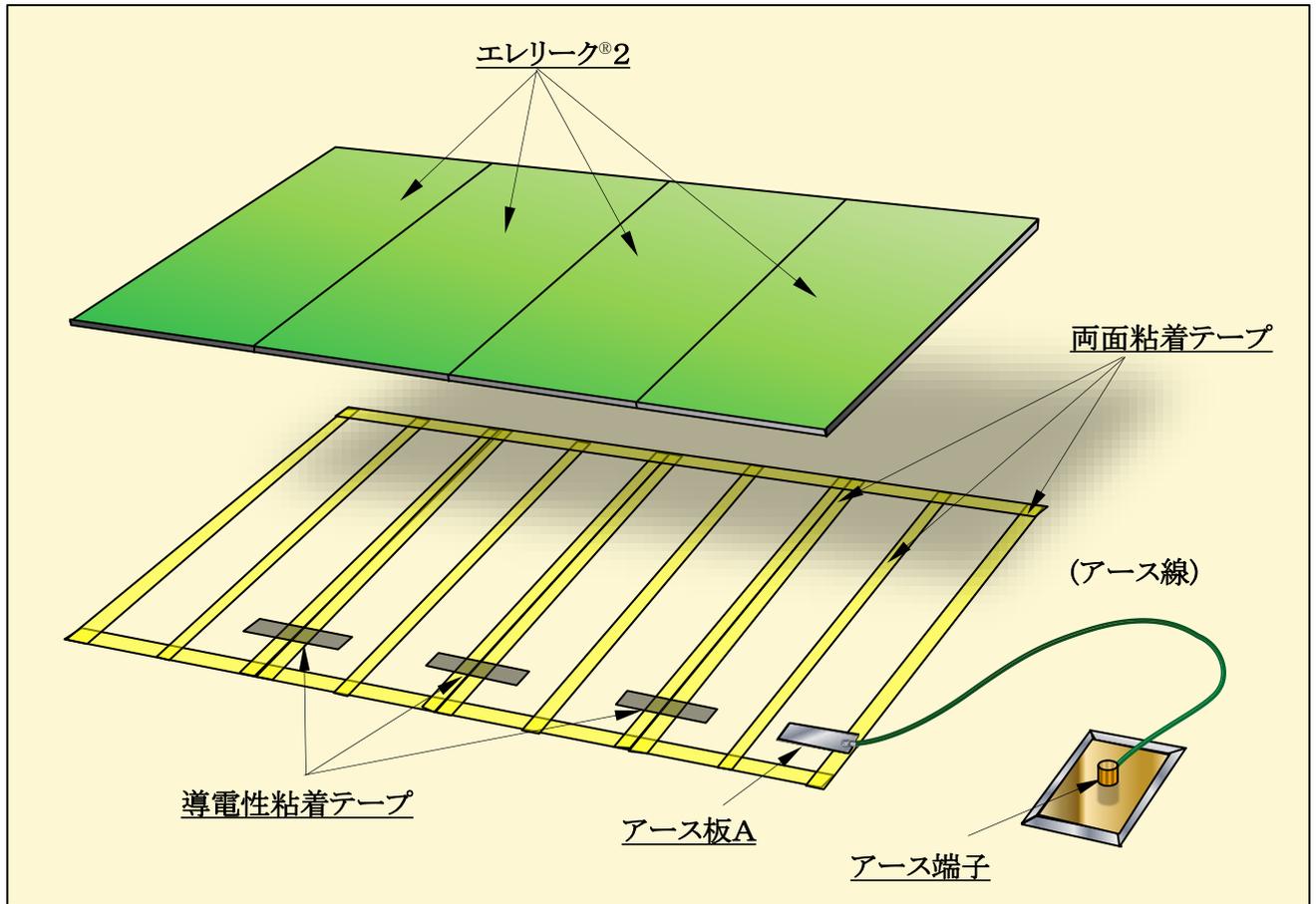


図-1

3.1.4 下地処理

施工後の仕上り良否は、材料、施工技能とともに下地条件で大きく左右されます。十分な下地点検を行い、不都合のないことを確認の上、エレリック2の施工を行ってください。

不都合のある場合は、施工前に施主、監督者と協議し、補修などの適切な処理を施してください。

重要な点検項目を下記します。

- ⚠ ① 敷設する面(床面など)は乾燥していること。
- ⚠ ② 定常的な振動などの影響がないこと。
- ⚠ ③ 敷設する面は強固で、たわみなどの変形を生じないこと。
- ⚠ ④ 敷設する面は、突起や凹凸のないこと。
- ⚠ ⑤ 両面粘着テープによる接着を阻害するような粉体、粉塵、油分などのないこと。

3.1.5 施工手順例（床面に敷設する場合）

- (1) エレリーク2を敷設する床面の、砂、塵埃、油汚れなどを除去する。
 - (2) 収縮・巻きぐせを取るため、設置前に広げて24時間以上放置する。
 - (3) エレリーク2を敷設する箇所(床面)に罫書く。
 - (4) 罫書線の内側に沿って床面に両面粘着テープを貼り、ローラなどで圧着させる。
※ 両面粘着テープは、敷設するエレリーク2の四辺と中央の位置に貼ることを推奨します。
但し、敷設する床面の状態などにより、両面粘着テープを貼る範囲、面積については適宜調整ください。
※ この時点では、エレリーク2を貼り合わせる側の離形紙は剥がさないでください。
 - (5) 両面粘着テープ(または、罫書線)に合わせ、床面にエレリーク2を敷く。
 - (6) 床面に敷いたエレリーク2の片側を、もう一方が動かないよう静かにめくり、両面粘着テープの離形紙を剥がす。
※ 複数枚のエレリーク2を並列に敷設し、導電性粘着テープをお互いの間に介在させる場合、または付属のアース板Aを取り付ける場合は、その付近の両面粘着テープの離形紙は剥がさずにおき、導電性粘着テープ、アース板Aを貼る直前に剥がすようにすると、作業がしやすくなります。
なお、導電性粘着テープやアース板Aを介在させる場合は、それらがエレリーク2のベース面(黒い面)に直接接触するようにしてください。
 - (7) めくった側のエレリーク2を、離形紙を剥がした両面粘着テープの上に静かに戻し、エレリーク2と両面粘着テープを重ねた部分の上から、ローラなどにより圧着する。
その際、接着面に気泡などの不具合が生じないよう、気泡を外に追い出すように圧着する。
 - (8) もう片側の接着処理についても、上記(6)～(7)の作業を繰り返す。
- ※ エレリーク2を複数枚突き合わせて並列に敷設する際、経年変化で目地開きが発生する場合があります。
これに備え、目地部に予めエレリーク2テープ(有償)を貼ることで、目地開きした部分を保護し、目立たなくすることができます。
必要な場合には弊社までご用命ください。

3.2 接着剤全面接着工法

3.2.1 概要

エポキシ・ウレタン系接着剤で、エレリーク2(クロス貼り)を全面接着固定する施工方法で、ライン変更等がなく、貼替えの必要がない床面の静電防止に適します。

-  エレリーク2(クロス貼り)は、一般のエレリーク2に比べて、耐荷重に優れておりますが、敷設された上をフォークリフトや重機を走行させさせないでください。
-  重量物を積載した台車などを走行させる場合、台車の車輪一輪につき荷重が200kg以下になるようにしてください。
また、台車を急角度に旋回させるなど、著しい負荷がかからないようにしてください。
-  本工法に一般用エレリーク2を使用した場合は、使用条件により、目地開き、き裂、ふくれ、剥がれなどが発生する場合がありますのでご使用にならないようにしてください。
-  施工後に水分、又は、湿気上昇や結露などが予想される下地の場合、目地開き、ふくれ、剥がれが発生することがありますので、防湿層を設けるなどの適切な措置を施してください。
-  土間床、地下階床、畜熱層の上部床など、下層から水、又は湿気が上昇する恐れのある場合には、コンクリート床板の下面の防水層、又は、防湿層を設けるか、予備施工により事前確認の上、本施工を行なってください。

3.2.2 使用材料

表-2をご参照ください。

表-2

材 料 名	仕 様	必要量 ^{※1}
エレリーク [®] 2 (クロス貼り)	—	—
アース板 A	ステンレス板+1.25mm ² IV線	1本/50m ²
接着剤	市販品 (エポキシ系・ウレタン系接着剤など)	—
導電性 粘着テープ ^{※2}	市販品 (例:0.1t×40mm×120mm)	1枚/10m ²

- ※1：上記の必要量は、敷設面積形態等により若干変動しますので、目安としてください。
エレリーク2(クロス貼り)(標準:10m/巻)に「アース板A」が1セット同梱されて
いますが、接着剤、並びに導電性粘着テープについては、弊社で取扱いしており
ませんので、市販品をご購入いただきますようお願い申し上げます。
- ※2：エレリーク2(クロス貼り、以下同じ。)を連続して並列に並べて敷設する場合、
エレリーク2同士の帯電防止効果を最大限に引き出すため、市販の導電性粘着
テープを介在させ、エレリーク2間の導通を確保するようにしてください。

3. 2. 3 施工概略

図-2をご参照ください。

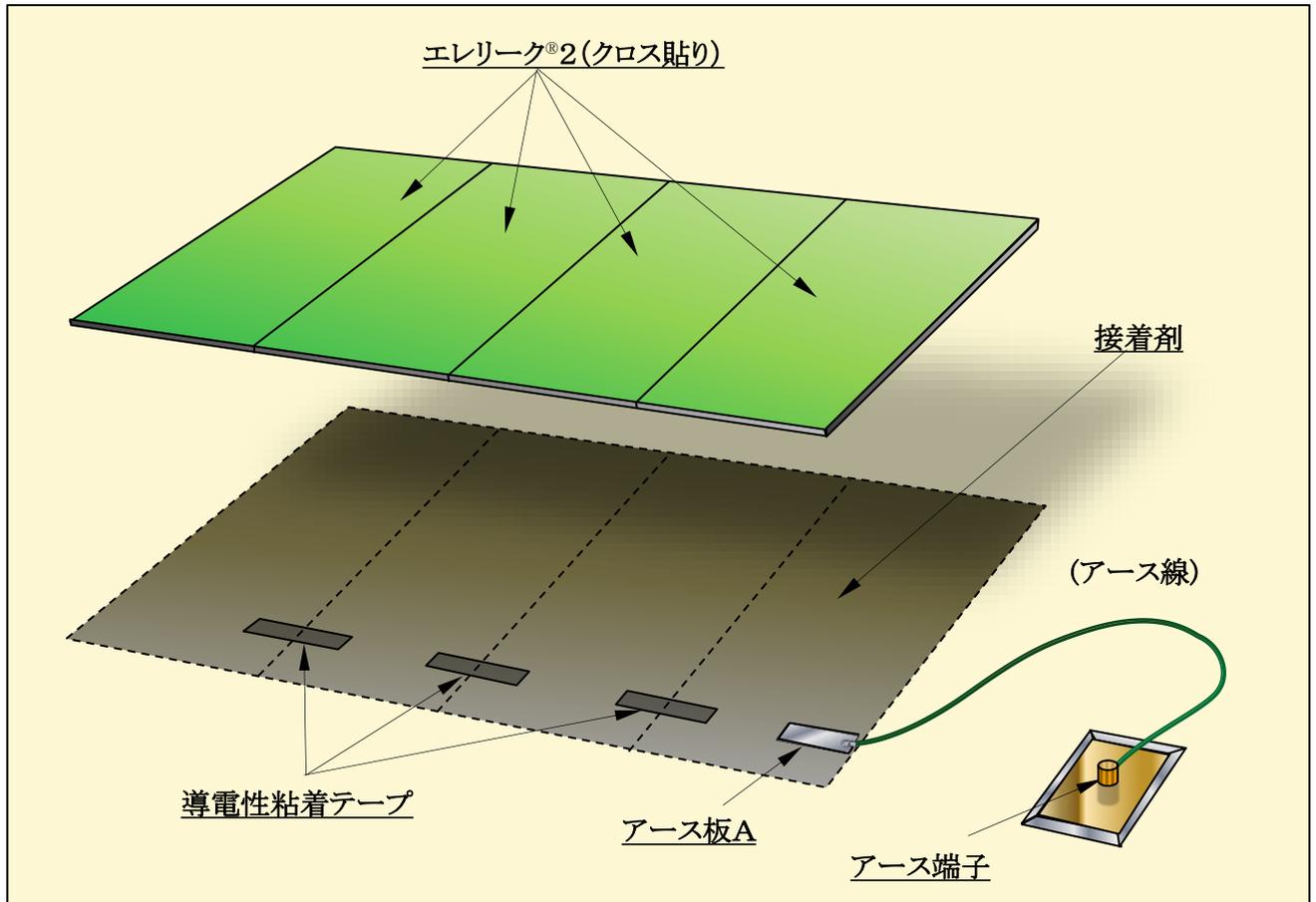


図-2

3. 2. 4 下地処理

施工後の仕上り良否は、材料、施工技能とともに下地条件で大きく左右されます。十分な下地点検を行い、不都合のないことを確認の上、エレリック2(クロス貼り)の施工を行ってください。

不都合のある場合は、施工前に施主、監督者と協議し、補修などの適切な処理を施してください。

重要な点検項目を下記します。

- ⚠ ① 敷設する面(床面など)は乾燥していること。
- ⚠ ② 定常的な振動などの影響がないこと。
- ⚠ ③ 敷設する面は強固で、たわみなどの変形を生じないこと。
- ⚠ ④ 敷設する面は、突起や凹凸のないこと。
- ⚠ ⑤ 接着剤による接着を阻害するような粉体、粉塵、油分などのないこと。

3. 2. 5 施工手順例（床面に敷設する場合）

- (1) エレリーク2(クロス貼り, 以下同じ。)を敷設する床面など、砂、塵埃、油などの汚れを除去する。
- (2) 収縮・巻きぐせを取るため、設置前に広げて24時間以上放置する。
- (3) エレリーク2を敷設する箇所を罫書く。
- (4) 罫書線に合わせ、床面にエレリーク2を敷く。
- (5) エレリーク2の片側を、もう一方が動かないよう静かにめくり、接着剤を床面全面に均一に塗布する。
 - ※ その他、接着剤の施工方法詳細(塗布量、乾燥時間など)については、接着剤メーカーが推奨する手順に準じてください。
 - ※ 複数枚のエレリーク2を並列に敷設し、導電性粘着テープをお互いの間に介在させる場合、または付属のアース板Aを取り付ける場合は、それらがエレリーク2のベース面(黒い面)に直接接触するようにしてください。
- (6) めくった側のエレリーク2を、接着剤を塗布した床面に静かに戻し、接着面に気泡などの不具合が生じないよう、気泡を外に追い出すように、ローラなどで圧着する。
 - 特に端部は、浮きや反りがないようしっかりとローラなどにより圧着する。
- (7) もう片側の接着処理についても、上記(5)～(6)の作業を繰り返す。

※ エレリーク2(クロス貼り)を複数枚突き合わせて並列に敷設する際、経年変化で目地開きが発生する場合があります。
これに備え、目地部に予めエレリーク2テープ(有償)を貼ることで、目地開きした部分を保護し、目立たなくすることができます。
必要な場合には弊社までご用命ください。

4. 養生・メンテナンス

4. 1 敷設後の養生

- (1) 接着施工後の養生期間は最低2～3日間必要です。
- (2) 養生期間中のご使用は避けてください。
 - どうしても歩行する必要があるときは、保護板などを上に敷き、エレリーク2に直接ダメージを与えないようにしてください。

4. 2 メンテナンス

定期的な点検を行い、表面に汚れなどが付着した場合は、市販の中性洗剤で清掃するなどの処置を実施ください。
なお、清掃により色落ちする場合がありますので、予めご了承ください。

本製品に関するご質問ご相談は下記にご連絡ください。

東北ゴム株式会社
TOHOKU RUBBER

〒983-0001 仙台市宮城野区港一丁目1番12号
TEL 022-387-1511(代) FAX 022-387-1519
URL: <http://www.tohoku-rubber.co.jp>

※ エレリークは東北ゴム株式会社の登録商標です。

※ 本取扱説明書の内容は予告なく変更することがありますのでご了承ください。

2018.10.2